

研究主題

「英語ノート」を活用した 外国語活動の指導の充実に関する研究

—学級担任単独による授業を中心とした授業案例の作成と活用をとおして—

【研究担当者】 小 椋 孝 史

【この研究に対する問い合わせ先】

TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562

E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

研究の目的

「英語ノート」は

各学校の実情、児童の実態等に合わせた活用が求められています。

しかし

『「英語ノート」指導資料』の授業案はすべてALTとのチーム・ティーチングです。

そこで

本県の実態に合わせ、学級担任単独による授業を中心とした授業案例を作成します。

指導上の課題

「英語ノート」を活用した外国語活動の指導には多くの課題がありますが、よく聞かれる課題は次のものです。

活動のねらいが明確でない指導

「指導資料」からは、活動の進め方の把握はできますが、なぜこの活動をするのかを読み取ることが困難です。

このため、「英語ノート」の活動を次々とこなす、単にCDを聞かせ答えさせる、といった活動のねらいが明確でない指導に陥りがちです。

スキルを習得することに偏重した指導

最低限の音声や表現を身に付けなければ、その後のコミュニケーション活動を楽しむことができないという考えから、スキル習得のためにCD音声を反復し唱える活動に多くの時間を費やし、コミュニケーション活動の時間が不足する指導になりがちです。

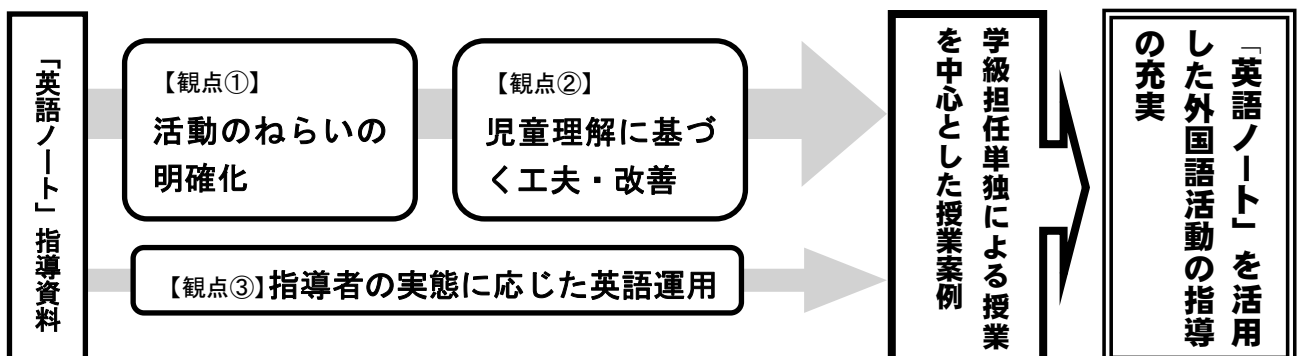
学級担任が英語運用に不安を抱えた指導

「指導資料」には、指導者の用いる英語表現として多くの英語表現が示されています。

学級担任は英語を話すことに気を取られ、教材研究や準備、活動時における児童の見とり等が不十分な指導になりがちです。

授業案例の作成

授業案例作成に当たっては、「指導資料」を基に、以下に示す三つの観点から工夫を加え、授業案例を作成します。



授業事例の実際

観点① 活動のねらいの明確化

目標の柱に沿った三つのねらい（「言語や文化に対する体験的理解」「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」「外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ」）を示しました。（「外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ」については「単元計画」に「活動の種類」を示しています。）

観点③

実態に応じた英語運用

学級担任に必ず英語の使用を求めている表現（＝各単元の学習内容として設定された表現・語彙）

「授業の進め方」の欄に英文にて表記をしました。

学級担任個々の英語運用能力に応じて使用を求めている表現（クラスルーム・イングリッシュ）

英語運用能力を少しずつ高めていくために、ポートフォリオを活用しました。

外国語活動

「自己評価表」

◆授業日：平成21年7月17日（金）

◆指導単元：英語ノート・2 Lesson 4の四時間目

◆今回の計画

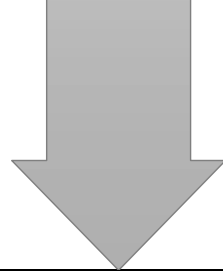
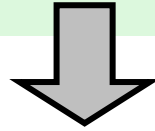
使おうとする英語表現	使用場面
That's good!	児童ががんばって言葉を発したとき
Keep it up!	
You can do it!	児童の不安を感じ取ったとき
It's OK to make mistakes.	
Good job!	児童をほめるとき

◆授業を振り返って（次回への抱負）

児童のスピーチに対して、もっと奮める表現を使いたが、全員がスピーチする時間の割に、用意したクラスルームリッシュのバリエーションが乏しすぎた。

英語ノート・2 Lesson 6 第3時	目標／行きたい国を尋ねたり、尋ねられて答えたりする。	
学級担任の活動	活動のねらい	
あいさつ、本時の確認など(3)	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成	言語や文化について体験的に理解を深める
Let's Chant(5) 1. 今日は先生の行きたい国とその理由でチャンツをしましょう。先生はイタリアに行ってスパゲティを食べて、ナポリの夜景を見たいです。 2. Let's Chant..	目的（他者の行きたい国とその理由を聞く）をもち聞く態度を育てる。	日本語とのリズムの違いに気付かせる。
Let's Listen(10) 3. Open your textbook to page 40. 4. 3人のスピーチを聞いてわかったことをふき出しに書きましょう。 5. 「相手の話は黙って聞く」という聞き方は、国によっては「失礼」と思われることもあります。ではどのような聞き方が良いか先生がやってみます。 （CDの音声に対しコメントや質問を述べる。） 6. 相手の話に対するコメントや質問は、あなたの話をちゃんと聞いていますということを伝える働きがあります。 7. それでは、先生のスピーチにコメントや質問をしてみましょう。 Hello. I want to go to (Egypt). I want to (see) (camels). Thank you.	相手の話にコメントしようとする態度を育てる。	「よい聞き方」が、文化により異なることに気付かせる。
Activity1 準備(25) 8. Open your textbook to page 41. 9. 次の時間は、みんなの行きたい国とその理由を発表しますから、これからその準備をしましょう。 10. 準備ができた人から、先生に行きたい国とその理由を聞かせに来てください。 11. 先生へ話し終えたみなさんは、友だちの行きたい国と理由を聞いてコメントや質問をするのに挑戦してみましょう。	話をしっかり聞き、確かなコメントを返してみようとする態度を育てる。	自分の話にコメントが得られる喜びに気付かせる。
ふりかえり、あいさつ(7) 12. （本時の活動について、児童が気付いた言葉や文化に関すること、望ましいコミュニケーションを図ろうとする態度を具体的に評価する。） 13. ふり返りカードに今日の感想を書いてください。		

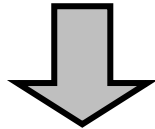
外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみを育てる。



観点②

児童理解に基づく工夫・改善

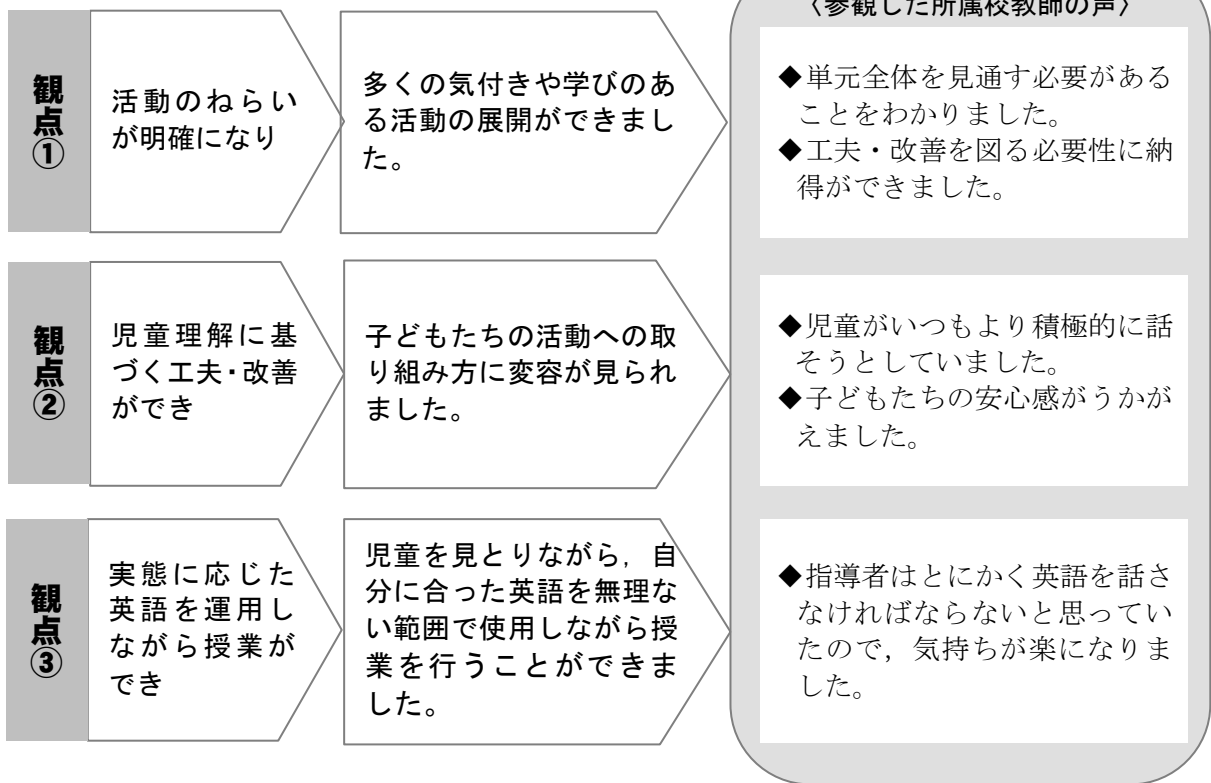
本研究において、工夫・改善の視点、目的、内容を右表のように整理しました。授業事例には、活動への工夫・改善の図り方を例として示しました。



[本研究における学級担任の児童理解に基づく活動の工夫・改善]

視点	目的	内容
「他教科等との関連」	活動への積極性を高める。	児童の得ている知識や技能、経験と学習内容等との関連を図る。
「題材・素材」		児童の興味・関心を高める題材等を取り入れる。
「表現・語彙の調整」	無理や負担なく外国語に慣れ親しませる。	使用語彙や表現内容の調整を図る。
「活動の見通し」		あせらずじっくり外国語に慣れ親しませる環境を整える。
「関わりの場」	関わり合いながら慣れ親しませる。	関わり合うことを楽しいと感じるような児童同士、あるいは児童と学級担任との関わりの場を設ける。

作成した授業案例を使用した授業実践から

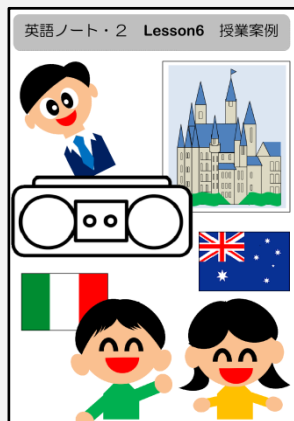


児童の感想

- ◆どこの国に行きたいかを話したら「私も行きたい！」などと言ってくれたのでうれしかったです。
- ◆いろいろな人と話げたので良かったです。
- ◆コメントしたら友だちが喜んでくれたことがうれしかったです。
- ◆私と同じオーストラリアに行きたい人が四人もいて、しかも見たいところが同じ人もいて、びっくりしました。
- ◆みんなの行きたい国を聞いて、そう言われてみれば僕も行ってみたいと思う国がたくさんありました。

上に示したものは、実践に使用した「ふり返しカード」への児童の記述です。「～が言えるようになった」「～を覚えた」等、英語のスキルに関する記述ではなく、言語や文化、積極的なコミュニケーションに関する記述が多く見られました。

おわりに



研究内容の詳細については、当センターWebページに資料を掲載しておりますのでご覧ください。

本研究において作成した授業案例も、同じく当センターWebページからダウンロードできますので、ご活用ください。

(岩手県立総合教育センターWebページ
<http://www1.iwate-ed.jp/>)